議会だより 北橋市政2回目のハートフル予算編成

平成２０年度の予算議会は２月２８日から３月２４日にかけて行われ、全会計で１兆１８３４億円の予算案を審議可決しました。

今年度予算の特徴としては子育て支援や教育の充実について大きく前進。又、中心市街地活性化事業や地元中小企業に配慮した公共事業の推進など数多くの事業が盛り込まれています。又、４月からスタートした後期高齢者医療制度の見直しを求める国への意見書を全会一致で議決しました。本会議はできるだけ正確に答えてもらうため事前に質問の内容を渡しますが、答弁の内容はわかりません。ただ質問直前に、答弁が長くなりそうとのことで、第2質問をするためには、質問をついつい早口でせざるをえず、傍聴して下さった皆様や、ケーブルテレビをご覧になられた方には早くてわかりづらかったのではと反省をしています。市政の中には問題が山積しており、ついついあれもこれも取り上げておかなければと欲張ってしまいます。本当は毎回でも質問に立ちたいのですがそうもいかずつらいところです。

本会議での質問の項目は以下の通りです。

《マニフェスト関連事業の予算反映状況》

	20年度	19年度	増加
子育て支援の重点化	50.81	39.19	11.62
教育の重点化	90.76	75.67	15.09
福祉の充実	17.67	13.09	4.51
環境首都の実現	17.04	10.32	6.72
元気な経済都市づくり	208.70	124.98	83.72
ハートフルなまちづくり	27.49	23.03	4.46
市民と共に歩む市政運営	3.92	3.21	0.71
計	416.32	289.49	126.83

（資料）北九州市財政局　単位 億円

※平成19年度の数値は、19年度限りで終了する単年度事業費を除いています。
※全児童の放課後対策事業は「子育て支援の重点化」で計上しています。

1.ワークライフバランスの推進について

仕事と生活の調和、ワーク・ライフ・バランスの推進は、男女がともに、人生の各段階で仕事、家庭生活、地域生活など希望に沿って展開できる社会の実現を目指すものであり、現実的な労働人口減少の問題、年金の財源問題、介護、子育て、教育、ボランティアやまちづくりなど社会の様々な問題を解決するために今後必要不可欠な考え方です。個人の生き方の選択の幅を広げると同時に、企業が投資的経費として取り入れることにより、人材の確保、定着、生産性の向上等経営メリットももたらします。今議会では厚生労働省でこのワークライフバランスの担当でもあった麻田副市長に尋ねました。

（１）今後市民や企業に具体的にどのように啓発していくのかについて

（２）限られた時間内で効率よく仕事を終わらせるという考え方でワークライフバランスの推進に取組みいかに労働生産性を上げられるか、本市職員の方々の意識向上のための取り組みについて
を尋ねました。

2.子育て支援について

（１）**放課後児童対策について**

学童保育の全児童化に向けた施設整備の見通し、併せて施設の拡大、増加に伴う指導員の配置に対する具体的な考え方を尋ねました。

（２）**（仮称）親子ふれあいルーム（子育て広場）整備事業について**

まずは八幡東区役所内に設置される予定のスペースの使い方の状況、また開館日や開館時間について、更に八幡東区以外の設置についての考え方や設置のスケジュールについてを尋ねました。

（３）**（仮称）赤ちゃんの駅事業について**

昨年の予算議会の市長質疑で取り上げた赤ちゃんの駅事業が実現することになり、子育て日本一を目指す北九州市にふさわしい内容と設置箇所の充実、安心して利用できる環境づくりについての考え方、更に市民への周知方法についてを尋ねました。

3.食育について

年々増える医療費がわが国の大きな問題となっていますが、本市においても、平成１２年度２０８０億円だった医療費が、平成１７年度は２３１６億円と大きな伸びを示しています。一般的に医療費の約３分の１が生活習慣病にかかる額であると言われています。その予防には適度な運動も効果的ですが、まず、大切なのは食事や正しい食習慣を身につけることです。そのためには、子どものころから生涯に亘る食育が重要です。そこで

（１）北九州市食育推進会議の今後のスケジュールについて
（中学校完全給食について結論の時期も含む）
（２）家庭科教員未配置の中学校の食育指導について
（３）食育推進室の設置について
を尋ねました。

4.NPO・市民活動支援について

（１）北九州市市民活動促進検討委員会の報告について
（２）ＮＰＯ市民活動支援基金について
（３）ＮＰＯ市民活動融資制度について
（４）ＮＰＯ法人認証事務の県から権限委譲について
以上のことを尋ねました。

5.低炭素都市の実現について

（１）現在の考え方と今後のスケジュール
（２）低炭素都市を実現するための市民や企業の取組み促進について
（３）自転車が便利なまちづくり
（４）再生可能エネルギーの技術開発と導入の推進について
（今回はＤＭＥ、水素エネルギー、太陽電池の普及に向けた本市の取組みの現状と若松区の次世代エネルギーパーク構想の中でＤＭＥ車か水素自動車のような象徴的なものを、このエリアに走らせることについて）を尋ねました。

6.特別支援学校のさわやかトイレ整備事業について

7.農業振興施策の推進について

詳細については事務所までお問い合わせいただくか、北九州市議会ホームページの会議録がご覧頂けます。

市議会予算特別委員会市長質議でせまる

市立(若松)病院問題 早期解決を！

医師不足も対策チーム

医師不足などで赤字経営や診療科の休診・縮小が相次ぐ北九州市立の4病院について、北橋健治市長は17日の市議会予算特別委員会で「深刻かつ大きな危機感を抱いている」と述べ、緊急課題に対応するプロジェクトチームを月内に発足させると説明した。大学病院から派遣された医師の引き揚げで、市立若松病院（若松区）の内科診療が縮小、市立医療センター（小倉北区）精神科と眼科の外来休診が明らかになっている。三宅まゆみ議員（市民の風）の質問に答えた。

チームは、麻田千穂子副市長をトップに、病院局や保健福祉局、財政局などから構成。医師の待遇改善と確保、4病院ごとの経営改善策について検討する。

市立医療センターでは精神科1人、眼科2人の医師が派遣されていたが、大学の協力が得られなくなった。精神科は18日から、眼科は4月1日から休診となる。

［平成20年3月18日　朝日新聞］

小泉政権下で行われた医療制度改革の影響もあって平成１６年度以降急激に悪化を続けている市立病院経営ですが、心臨床研修医療制度の導入によって特色がなく勤務条件や待遇のよくない公立病院は医師離れも全国的に問題となっています。市立若松病院の内科医の引き上げの問題は皆様に大変ご心配をおかけしていますが、現在全力で早期解決に向け取り組んでいます。

えがお 咲顔 サーサー通信

子どもたちの未来のためにも頑張ります！

春らんまん。皆様はどんな春をお過ごしでしょうか？私はなかなか休みがとれず、少し足を延ばしてとはいきませんので、子どもを実家に預けているときはせめて昼休みを利用し、子どもを連れ区内のお花のきれいなところに行き一緒にごはんを食べてまた預けるという形で短時間ですがお花見を楽しんでいます。晃一朗も2歳半になり、すっかり会話ができるようになりました。人は２歳でこんなにいろんな事ができるのだと改めて驚いています。ただ毎朝、「晃ちゃんは今日はどこへいくの？」と尋ねられ、とても胸の痛くなる思いです。いろんな方に「今が一番かわいい時よ」と言われ、そんな時期にずっと一緒にいてあげられず申し訳ないと思いつつ、その分、わが子も含め子どもたちが育つ環境を少しでも良くすることが使命だと頑張っています。お陰様でこれまで提案した子育て支援や教育に関しての提案、要望はかなり順調に実現しうれしく思います。また夫が県議会議員として仕事をさせていただくようになり、特に教育関係を中心に連携がとれ、こちらもうまくいく事が多く心強く思います。今後もしっかりと皆様のご意見を承りながら頑張って参ります。ぜひご質問ご要望などございましたらご連絡下さい。